



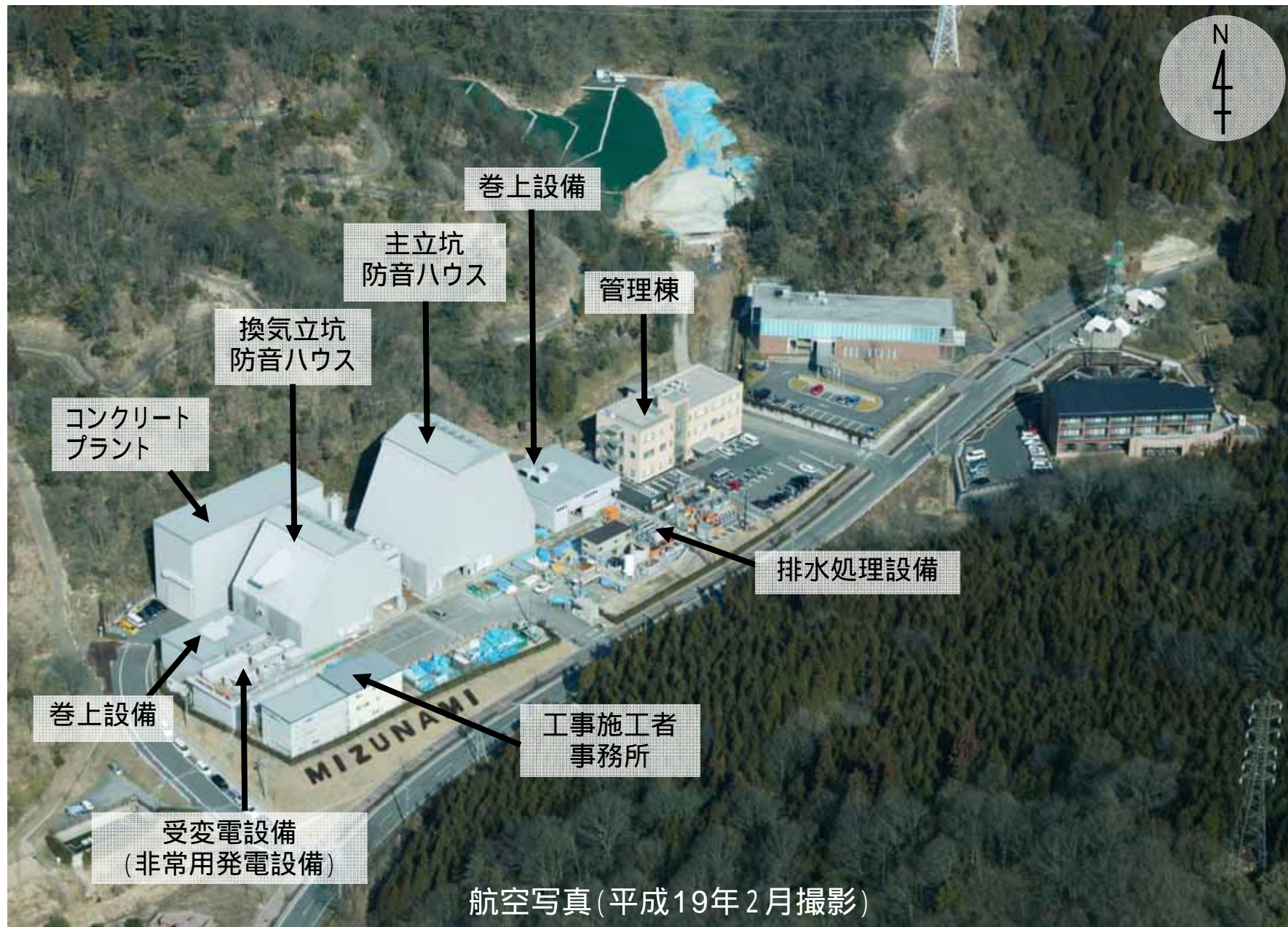
瑞浪超深地層研究所の現状

平成19年10月11日

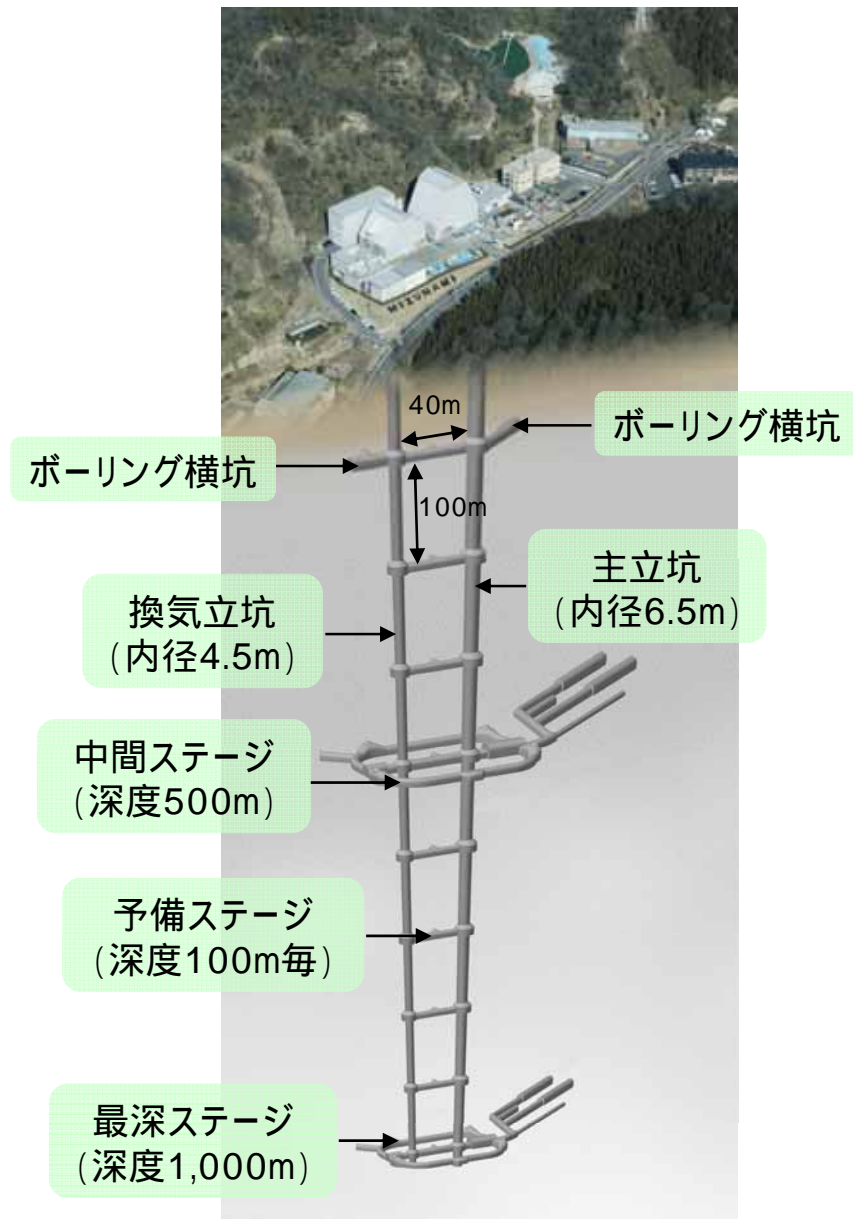
独立行政法人日本原子力研究開発機構
東濃地科学センター

写真：貫通した200m予備ステージ
(平成19年9月10日貫通)

地上設備の設置状況(外観)

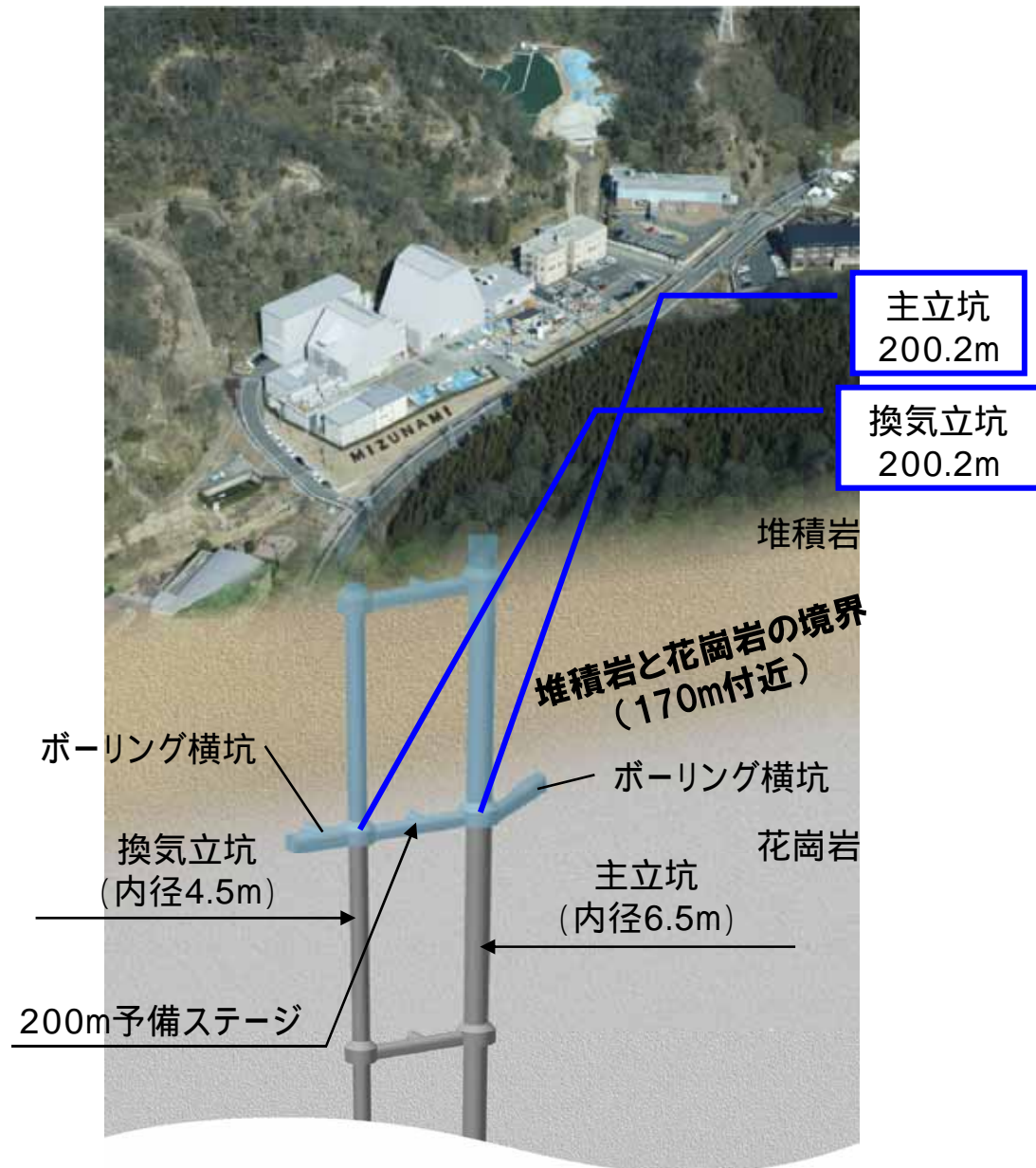


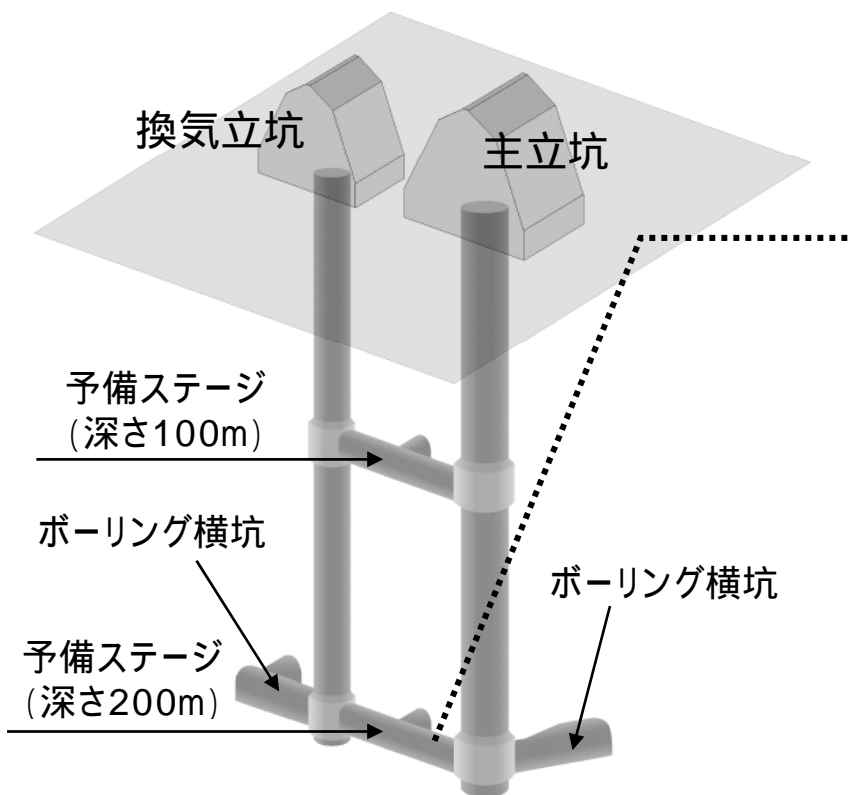
研究坑道のイメージ図



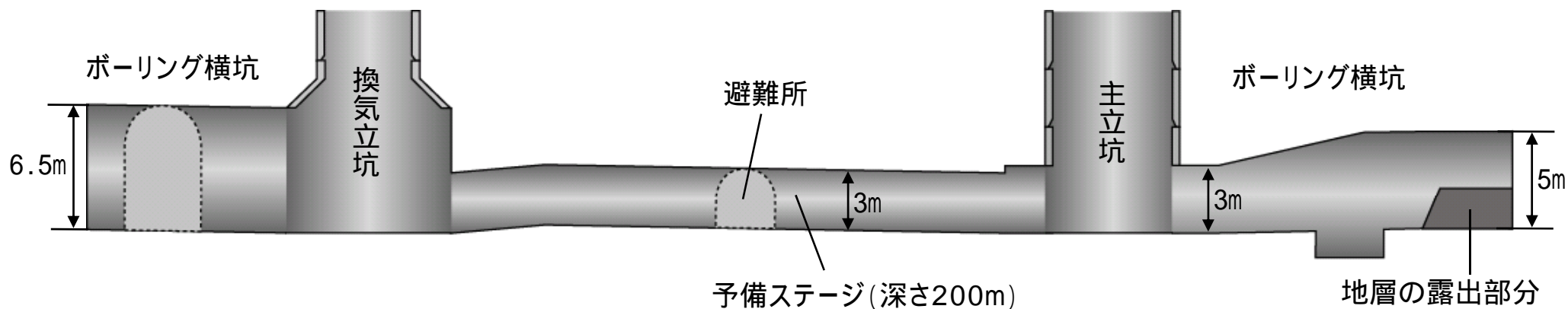
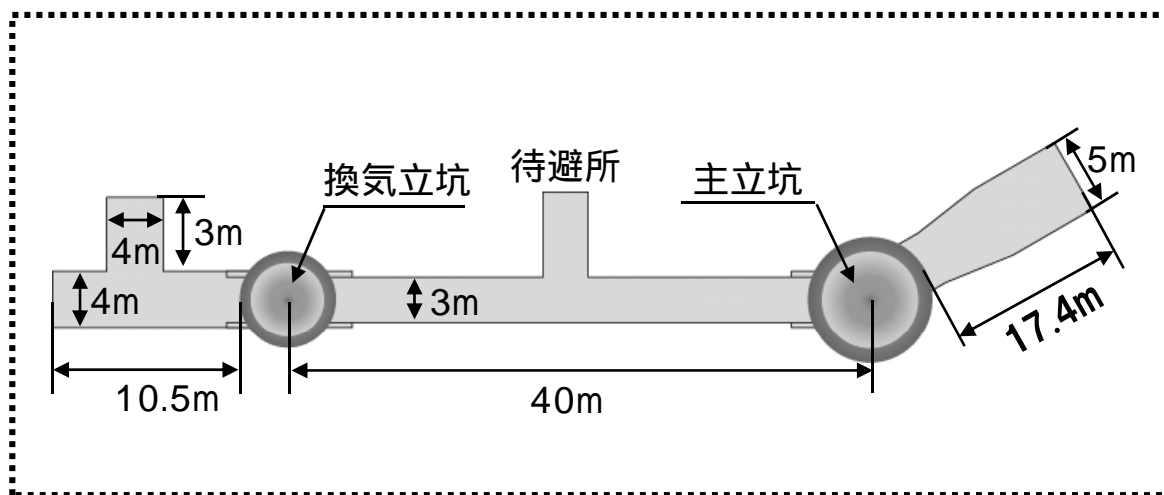
(施設の形状、配置などは変更の可能性があります)

平成19年度までの研究坑道掘削の現状





【予備ステージ及びボーリング横坑の平面図】



深度200mの予備ステージ



200m予備ステージ



避難所



平成19年9月10日貫通



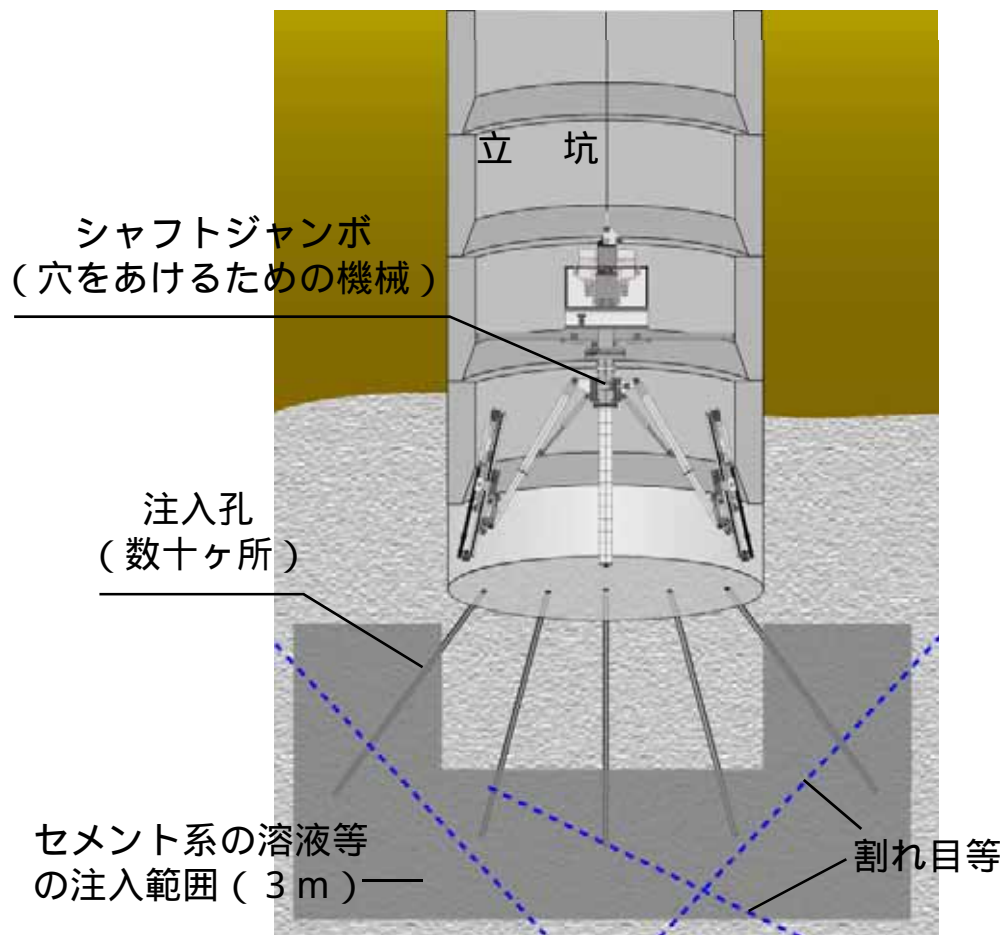
主立坑側のボーリング横坑



換気立坑側のボーリング横坑

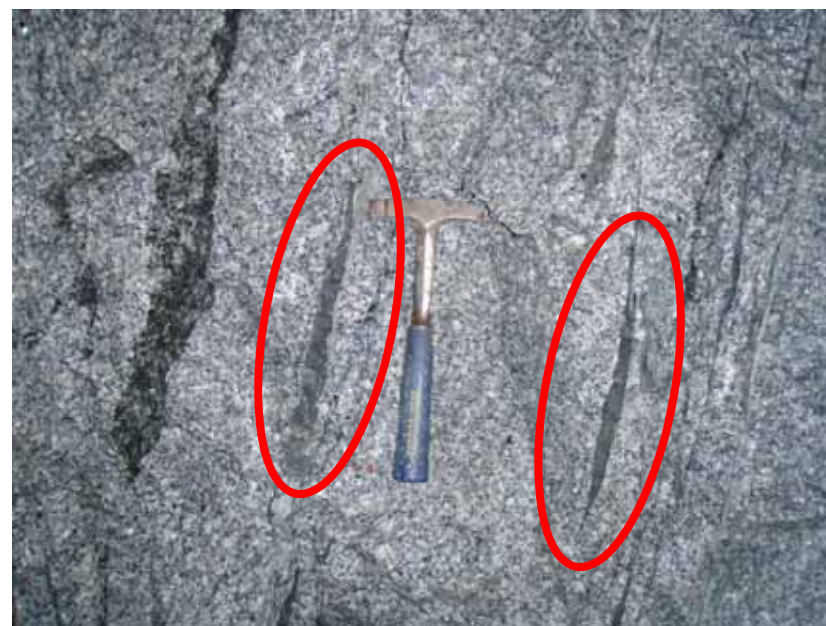
【グラウトの概念図】

《<例>立坑の場合》



湧出る地下水の量を低減させるため、岩盤の割れ目や隙間などにセメント系の溶液等を注入

○ 注入したグラウト材 (セメント系)



グラウトがどの程度効果があったのかを評価しながら掘削を進めます

共同研究



【産業技術総合研究所】
（ボーリングコアを用いた
岩盤強度に関する研究）
（平成18年度実施）



【東北大学】
（傾斜計を用いたモニタリング技術の開発）
（平成18年度から継続実施）



【名古屋大学】
（ひずみ計等の設置）
（平成19年度実施）

【（財）電力中央研究所】
地下水年代の研究
（平成19年度実施）

施設利用



【東濃地震科学研究所】
（ひずみ計などの設置）
（平成18年度から継続実施）

（機構が受託した資源エネルギー庁公募事業）
地下坑道施工技術高度化開発
地質環境総合評価技術高度化開発
【平成19年度実施】

（融合研究）
量子ビーム応用研究部門（高崎量子応用研究所）
湧水処理に関する研究開発」
【平成18年度から継続実施】

《実施予定》
（共同研究）
「岐阜大学」「熊本大学」「武蔵工業大学」
「（財）原子力環境整備促進・資金管理センター」等